

本人意思が不明でも家族の承諾で脳死後の臓器提供を可能にする改正臓器移植法（7月施行）を受け、筑波大の学生グループ「賢謙楽学」と財団法人「いばらき腎バンク」（つくば市）が、DVD「話そう 大切な人と」を製作した。同グループ代表で医学群医学類4年の千原耐智露さん（23）は「臓器移植について知ったり家族で話し合っておくことは、すべての人にとって重要」と話し、DVDを家族で話し合うきっかけに活用してもらいたいと訴えている。DVDを製作したの

臓器移植について 家族で話し合っ

は、医学や看護を学ぶ学生のほか、芸術や工学システムを学ぶ同グループの学生12人。昨秋、県臓器移植コーディネーターの渡辺智英さんから「一般の人から見た臓器移植を分かりやすく伝えてほしい」と依頼され、製作に着手した。シナリオに加え、DVDカバーのデザインや撮影時の照明など、それぞれの専門性を生かして製作に参加したという。約20分間のDVDには、両親と中学2年生の兄、小学5年生の弟が登場。交通事故で脳死状態になった兄の定

筑波大生らDVD製作

学校での教材活用も

期入れの中から臓器提供の目線から家族に供意思表示カードが見え、目線から家族に供意思を伝えておくこと、ドナーになるが重要」との結論に達本人の意思を受け入れたという。専門用語もらるるまで、家族がそれはアニメを使って分かり合おうというストーリー。改正臓器移植法で、本人だけで判断し家族の書面による承諾の場合の家族の動揺があれば15歳未満の臓器提供が可能になった。同バンクは、若者にも関心をもってもらいたいと、DVDを学校や公共施設で教材と素人だったため、渡して活用してもらう考慮を講義を受けて討論をた、同バンク理事長の大河内信弘・筑波大大学院教授は「学生が自



DVD「話そう 大切な人と」を製作した筑波大の学生グループ「賢謙楽学」のメンバー

分たちの目線で製作しと話している。問い合わせは同バンク（290-8588・3775）。【鈴木敬子】